

マリレジャーに関する安全情報など様々な情報をお届けします！

海の事故情報 6 月中のマリレジャーに伴う海難発生状況

船舶海難 3 件と漁船への落雷による死亡事故が 1 件ありました。

【プレジャーボート 漁船と衝突】

- 6 月 18 日、山形県酒田市の沖合いで遊漁中のプレジャーボート（3 名乗船、長さ 5.95 メートル）とイカ釣漁船（2 名乗組み、18 トン）が衝突しました。両船乗船者にケガなどなく、自力で入港できましたが、プレジャーボートの船首手すり部分の破断など損傷が発生しました。イカ釣漁船は、「気付かなかった。」・・・とのことでした。



一歩間違えば、乗船者の死傷に至る大事故となるところでした。

【プレジャーボート 推進器障害】



- 6 月 21 日、山形県酒田市の沖合いで、釣り中のプレジャーボート（1 名乗船、長さ 7.48 メートル）から「スクリュープロペラが外れ、航行できなくなった。」との救助要請がありました。巡視艇により曳航救助し、乗船者に異常はありませんでした。推進器軸ジョイント部が外れ、プロペラに動力が伝わらない状態となったものです。救助要請の際、携帯電話は『圏外』となっており、信号紅炎を使ったが大型船が気付かなかったため、マリレ VHF で救助を要請したところ、第二管区海上保安本部運用司令センターがこれを傍受し、救助することができたものです。通信手段は、必需品です。

【プレジャーボート 運航阻害（ガス欠）】

- 6 月 24 日、千葉県から福井県に回航途中のプレジャーボート（2 名乗船、19 トン）が、福島県沖を航行中に、「ガス欠のため漂流中、東に流されている。」との救助要請がありました。巡視船から同船に軽油を供給して小名浜港に向かい、無事着岸できましたが、ガス欠で航行不能となるなんて信じがたい海難でした。乗船者に異常はありませんでした。事故当時、燃料メーターが正しく動作していなかったことから、ガス欠に気が付かなかったとのことでした。直前の給油量と

航続距離から燃料メーターの不良を察知することができたはずですが、発航前点検と運航中の計器類の動作確認が肝心です。また余裕をもった航海計画を立てることも必要です。

【漁船に落雷】・・・マリナー関係ではありませんが、お知らせするべきと思いますので・・・。

- ・ 6月16日、警察署から「青森県北金ヶ沢漁港の沖合いの漁船で落雷を受けてケガ人が発生した。」との通報がありました。漁船には親子2人が乗組んでいましたが、底建網の作業中に落雷を受け、息子さん(46歳)が海に浮いていたというものです。息子さんは、すぐに救助されて病院に搬送されましたが、死亡が確認されました。死因は、電撃による低酸素脳症と診断されました。実父の話によりますと、大きな雷鳴が轟きドンッという音とともにピリピリとした振動を感じ、船首方向を見ると息子の姿はなく、海中に転落していたとのこと。『低酸素脳症』とは、医学用語解説集によりますと、「循環不全または呼吸不全などにより、十分な酸素供給ができなくなり、脳に障害をきたした状態をいう。」と書かれておりました。

落雷による事故

海上での落雷事故は、たびたび発生しています。

今年になってから、他管区では落雷による船舶火災が1件、航海機器損傷による航行不能が1件発生しております。過去にもサーフィン中や海水浴中、防波堤で釣り中など海上・海浜など、雷による死亡事故が発生しております。大型船は、それなりの設備もありますから建物の中に居るのと同じですが、小



型船であるプレジャーボート・漁船、特にヨットはマストも高いので十分注意する必要があります。雷鳴が聞こえたり、雷雲が発生した場合には、早急に避難することが肝要です。泳いでいる人は、できるだけ早く岸に上がることです。

ワンポイント講座

『海水浴』・・・遊泳中の事故防止

海水浴シーズン 真っ只中。

熱い太陽。照りつける日差し。青い海。白い砂浜。まるで、夏に出てくるミュージシャンの某グループの歌詞のようです。

(何年か前に閑上海岸で野外コンサートがあり、海上で警戒を実施しました。)

しかし、イメージとは別に、海岸では毎年のように死亡事故が発生しております。

昨年、第二管区海上保安本部管内では、以下のとおり6件の海浜事故がありました。



7月(2件)

- ・宮城県仙台市の海岸(閉鎖中)で遊泳中の男性1名が溺れて行方不明(後に遺体で発見)。
- ・秋田県男鹿市の海岸では、子供2人が沖に流され、救助に向かった男性も溺れて3人死亡。

8月(3件)

- ・秋田県岩城町の海水浴場で2人が深みにはまって溺れ、1名救助・1名死亡。
- ・秋田県男鹿市の海岸で男性1名が遊泳中、岸に戻れなくなって行方不明(救助されるも死亡)。
- ・青森県平内町の海水浴場で素もぐり中の男性1名が行方不明(救助されるも死亡)。

9月(1件)

- ・福島県いわき市の岸壁で父子で釣り中、子供が海中転落して助けに飛び込んだ父が行方不明(子供は救助されるも父は海底から発見され死亡)。

このように、8名もの命を奪うという悲しい事故が発生しております。楽しいはずのマリンレジャーは、一瞬に悲しい出来事になります。

これらの事故は、遊泳禁止場所や閉鎖した海水浴場での遊泳、離岸流による沖合いへの漂流、不意に深みにはまったことや波に引き込まれたりしたための溺水などが原因として考えられます。

海上保安庁では、毎年7月から8月を夏季マリンレジャー安全推進活動に取り組んでいます。今年の重点事項は、

遊泳中の事故防止とプレジャーボートなどの事故防止

です。特に、飲酒しての遊泳(“酔泳”すいえい)による死亡・行方不明も多いことから“酔泳”に注意を」と呼びかけております。

- ・海水浴は、自治体等が海水浴場として開設している場所を利用しましょう。
- ・遊泳禁止場所は、波が高くなりやすい、水深が急に深くなる、岩場で危険、潮流が早いなど理由があります。「遊泳禁止」の表示がある場所で泳ぐことは、絶対にやめましょう。
- ・泳力には個人差があります。知人・友人と泳ぐ際は、うまい相手に合わせて無理することのないようにしましょう。
- ・幼い子供を海岸で遊ばせる際は、決して目を離さないようにしましょう。
- ・海水浴場では、場所によっては「離岸流」(岸から沖合いに向かう海水の流れ)が発生することがあるので注意しましょう。
- ・事故に遭遇した際などに備え、防水バック入携帯電話等連絡手段を確保しましょう。
- ・飲酒しての遊泳は、絶対やめましょう。また友人などが酔泳を行おうとしたら止めましょう。



この夏、開設する海水浴場が増えます。まだまだ震災前と同じにはなりませんが、海に対する想いが、変わってきていることは感じ取られます。でも事故も増える予感。

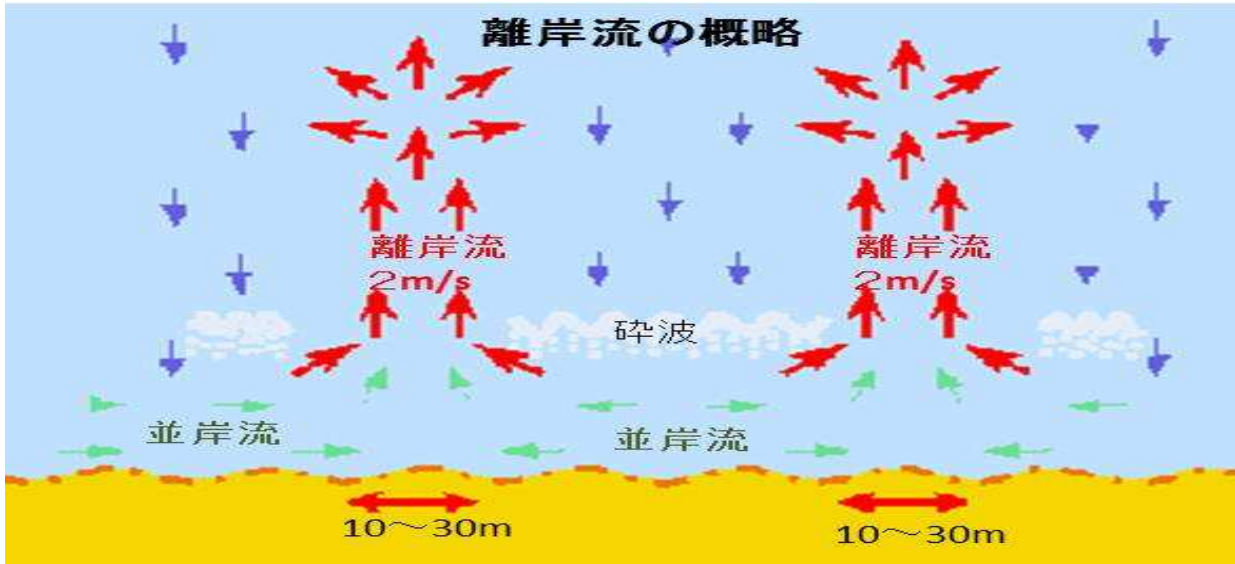
自分自身が事故に対する危機管理を持ち、楽しい夏休みにしましょう。

海の言葉

海や船に関する用語について解説します。 『離岸流』

遊泳中の事故防止として・・・

海岸に向かって強い風が吹くと海水は波となって沖から海岸に打ち寄せられます。そうすると海水はどんどん岸に溜まるので、どこかで沖合いに戻ろうとします。このときに海岸から沖合いに向かって一方的に流れる早い流れのことを「離岸流（リップカレント）」といいます。



離岸流は、外洋に面した遠浅で海岸線が長いところで、波が海岸に対して直角に入る海岸が発生しやすいところです。海岸の構造によって大きさは異なりますが、長さは沖合いに数十メートルから数百メートルに及ぶことがあります。幅は、10～30メートル程度とあまり広くないのが特徴です。左図のとおりです。流れの速さは、男子100m自由形の世界記録と同じくらいになることもあり、とても速い流れです。



離岸流に入ったときは、まず「あわてずに」落ち着いて、「流れに逆らわず」流れながら、「横方向に」泳ぎましょう。あわてて岸に戻ろうとしないことです。横方向に泳げば、流れはすぐに治まりますので、治まってからゆっくりと岸に戻ることはできます。

でも、離岸流にはまったら、手を振るなどアクションも必要です。有効な救助を行うためにも。

海難防止活動 2件 引続き、実施中です。

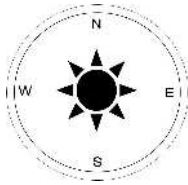
『霧海難防止対策』 5月1日(木)～8月31日(日)

第二管区海上保安本部では、東北太平洋沿岸海域の霧多発時期を捉え、霧海難防止対策として、船舶及び海事関係者等に対して霧の情報提供を行い、注意喚起するとともに、訪船指導等を通じて『適切な見張りの徹底』など、視界不良時における基本的な事項の遵守について呼びかけています。

『夏季安全推進活動』(マリンレジャー安全推進活動) 7月1日(火) ~ 8月31日(日)

夏季のマリンレジャーによる船舶海難・海浜事故を未然に防止するため、訪船指導や海浜パトロールなど集中的な安全推進活動を実施しています。

羅針盤 編集担当者の四方山話的コラムです。『マリレよろず屋』



マリレよろず屋

編集担当者である小生は、今年4月に着任し、21号から今回の24号までの4編も作成しました。読者の皆様に助けられて・・・

先月号の23号からは、従来の14箇所に加えて大口で32箇所の団体さんにもメール配信することとなりました。小生としては、前任者からの引き継ぎのとおりに「こじんまり」と思っていたのですが、マリンレジャー団体の会合に出席した「とある部長」から、マリンレジャー団体の会員にもメール配信したら・・・と。ということで同団体の事務局と調整し、メール配信について快諾を得られましたので、早速、先月号からメール配信しましたら「大??反響」がありました。しかもうれしい反響です。「会員に読んでもらい、事故防止に努めます。」って。われわれ役所の人間が、事故防止を唱えてもなかなか響かず、マリンレジャーを楽しむ本人やマリンレジャーをサポートする関係者が、直接「事故の未然防止」に取り組んでくれれば、おのずと事故は減るものと思われます。誰しも事故の発生を望んではいませんから。

『夏』真っ盛りです。マリンレジャーも活発中です。

大切な命! 自分で守る

海上保安庁では、大切な命を自分で守るため、そして、一人でも多くの人を救助できるよう、次の3つを基本とする「自己救命策確保」を推進しています。



ライフジャケット
の常時着用



携帯電話などの
連絡手段の
確保



救助要請
は118番

海のもしもは!
118

本紙を印刷物でご覧の方へ

マリレ情報よろず屋をホームページからご覧になる場合は、次のURLから! 「マリレよろず屋」で検索してもヒットします!

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/02kanku/yorozuya/index.htm>

マリレよろず屋

で

検索

